

せんごくの杜の昆虫（2023 年調査）

岩崎 拓

CB 大阪 : 〒590-0143 大阪府堺市南区新檜尾台 3 丁 1-3-504

Insects recorded in the satoyama area, Sengoku-no-mori, in 2023

Taku IWASAKI

CB-Osaka : 3-1-3-504 Shinhinoodai, Minami, Sakai, Osaka 590-0143, Japan

Abstract : The satoyama area, Sengoku-no-mori, was located in the hilly area of Kaizuka city, Osaka prefecture. Successive surveys were conducted to describe insect fauna and its change in or around this area. Insects observed or recognized by singing were recorded in a certain route of ca. 2-hour daytime walk, once a month from April to December in 2011-2021. To improve the accuracy of these descriptions, the number of surveys increased from 9 to 27, that is, three times a month in 2022, like the preliminary surveys in 2005-2006. As in the previous year, a total of 27 surveys were conducted from April to December, and over 400 species were identified in 2023. Number of the threatened species selected in the Osaka Prefecture Red List were 5 (4 species of Odonata and one of Orthoptera) in 2023. These species were all ranked as near threatened, that is, *Ceriagrion melanurum*, *Sinictinogomphus clavatus*, *Deielia phaon*, *Sympetrum frequens* in Odonata, and *Velarifictorus grylloides* in Orthoptera. Alien species such as the ricaniid planthopper, *Ricania shantungensis*, and the leaf beetle, *Lacoptera quadrimaculata*, were on the rise. These threatened species, other indicator species of grassland or environmental changes, and alien species, were summarized by each order.

Key words : insect, fauna, threatened species, satoyama, Sengoku-no-mori

はじめに

大阪府貝塚市の「せんごくの杜」周辺には草原は少ないものの、雑木林、農耕地、ため池、用水路などがあり、里山的景観を留めている（図 1）。近年は、カシノナガキクイムシによるナラ枯れや牛神池の水位低下が起こり、開通した外周路に沿ってナルトサワギクやオオブタクサなどの外来種の植物の拡大繁殖が見られるなど、自然環境が変化しつつある（岩崎、2025）。また、アカハネオンブバッタ、チュウゴクアミガサハゴロモ、ムネアカオオクロテントウ、ヨツモンカメノコハムシといった



図 1. 大井谷池周辺の景観
(2023 年 6 月 20 日)

侵入種の定着・増加も顕著である。2011 年から実施してきた 4 月から 12 月まで月 1 回の調査では、昆虫相の把握に関して精度が低いことが示唆されたので、2022 年に引き続き、2023 年も 4 月から 12 月まで月 3 回の昆虫調査を行うことにした（岩崎、2006、2025 参照；2005 年と 2006 年にも月 3 回の調査を行った；2021 年分までは千石荘調査地として報告）。

調査方法

せんごくの杜を含む貝塚市名越と橋本、および熊取町七山北にまたがる全長約 1.2km の周回コースを設定し（図 2）、2023 年の 4 月から 12 月まで月に 3 回のペースで、合計 27 回、雨の日を避けて調査を行った。

せんごくの杜調査地は、メッシュコード（環境庁、1997）が 51354299、標高は約 45～65mの間である。調査ルートは、2011 年度からほぼ同じで、ロータリー付近（ケヤキ広場）から切通しを南西方向に抜け、水田地帯を大井谷池に沿って南下し、ボタン池の土手を経て雑木林に入り、大樹の森を経て牛神池の左回りに一周し、周回路を通ってスタート地点へ戻るコースを設定した。そのコースを約 2 時間かけて歩き、主に見取り法を用い、鳴き声で種を判断できる場合は記録に加えた。また、植物に関しては 2023 年の 1 月から 3 月にかけても調査を実施しており、その期間に確認した昆虫に関しても、適宜、報告を行った。

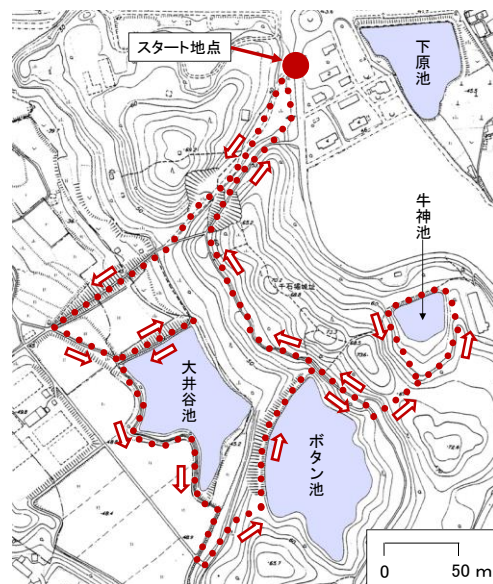


図 2. せんごくの杜周辺における昆虫調査ルート

点線が調査ルートで、矢印は進行方向を示す。
（一部、往復ルートを含む）

結果および考察

2023 年の調査結果を、大阪府レッドリスト種や注目種を中心に、2005 年以降の結果（表 8 参照）と比較しながら目ごとにまとめた。各調査日の主な結果は、画像も含めて速報として本報文末に掲載した。学名に関しては、表 9 にまとめて示した。

1. トンボ目

大阪府レッドリスト種であるキイトトンボ、ウチワヤンマ、コフキトンボ、アキアカネ（図 3）（ランクはいずれも準絶滅危惧）を含む、22 種のトンボが確認された（表 1）。2005 年以降における自身の調査において、2022 年の 20 種がこれまでの最多の種数であったが、2 年連続で更新することになった。キイトトンボは毎年確認されてきたが、個体数は減少傾向にある。ウチワヤンマは 2016 年以降毎年確認され、個体数の減少は認められない。2022 年に自身の調査では初めて確認されたコフ



図 3. アキアカネ
（2023 年 11 月 14 日）

キトンボは今回も確認された。アキアカネは2014年からの4年間は確認されず、2018年から6年連続で確認され（表8参照）、今回は2022年と同じく、11月ばかりでなく12月にも確認された。ただし、確認個体数のピークは2019年と2020年であり、2023年の合計4♂は2022年の合計8♂1♀に比べて個体数は減少している。

表1. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの社において確認されたトンボ目

「○」印は成虫による確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
カワトンボ科	ハグロトンボ												○	○		○												
アオイトトンボ科	アオイトトンボ													○	○				○		○	○						
	オオアオイトトンボ							○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○							
イトトンボ科	キイトトンボ						○	○				○	○	○	○	○	○	○	○									
	アオモンイトトンボ													○														
	クロイトトンボ															○												
サナエトンボ科	ウチワヤンマ									○		○		○	○	○												
	タイワンウチワヤンマ											○	○	○	○	○	○	○	○	○								
ヤンマ科	ギンヤンマ						○			○	○	○	○		○	○	○	○	○									
	クロスジギンヤンマ							○																				
オニヤンマ科 トンボ科	オニヤンマ																	○										
	シオカラトンボ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
	シオヤトンボ			○	○																							
	オオシオカラトンボ				○	○		○	○	○	○	○	○				○	○	○									
	コフキトンボ							○																				
	コノシメトンボ																								○			
	リスアカネ																	○	○		○	○						
	アキアカネ																						○	○	○	○		
	ショウジョウトンボ							○			○	○	○	○	○	○		○										
	チョウトンボ							○			○	○					○											
	コシアキトンボ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
	ウスバキトンボ										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								

2022年の20種、2023年の22種と出現種数の最多を更新した原因の一部は調査回数を増やしたことが一因であると推測される。それでも、ベニイトトンボとナニワトンボの最後の確認年はそれぞれ2014年と2016年のままである。

2. バッタ目

バッタ目は2022年より3種少ない37種が確認された（表2）。大阪府レッドリスト種は2022年と同じく、準絶滅危惧のナツノツツレサセコオロギ（図4）だけであった。本種は、2014年に初めて確認されて以降、増加傾向が続いている。

2022年に自身の調査では初めて確認されたタイワンエンマコオロギとクルマバッタは、今回の調査では両種とも確認されなかった。その他、昨年の調査で確認されて今回確認されなかったバッタ目としては、クサキリ、コガタコオロギ、サトアリツカコオロギなどがあげられる。

今回の調査で触れておくべきことは、9月10日に水田でキンヒバリが個体数をカウントできないほど多く鳴いていたことである（9月1日には1個体のみ）。このようなことは自身の調査では初めてのことである。

アカハネオンブバッタは合計で17♂11♀確認されたのに対して、オンブバッタは全く確認されなかった。オンブバッタに関しては、2018年から2023年まで年間で0～2個体と低水準のままで



図4. ナツノツツレサセコオロギ
(2023年6月10日)

表2. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認されたバッタ目

「△」印は幼虫、「○」印は成虫による確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日	
キリギリス科	クビキリギリス			○												△				△									
	ササキリ										△	△				○				○	○		○						
	オナガササキリ															○	○	○	○	○	○	○	○				○		
	ウスイロササキリ																		○	○	○	○							
	ホシササキリ																		○	○	○	○	○						
	キリギリス				△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	ヤブキリ	△	△	△	△			△	△	○																			
	ウマオイ属																			○									
ツユムシ科	ツユムシ																	○											
	セスジツユムシ																			○		○							
コオロギ科	サトクダマキモドキ							△			△	△		△					○	○									
	ナツノツツレサセコオロギ							○	○	○	○																		
	ツツレサセコオロギ																	○	○	○	○		○	○				○	
	モリオカメコオロギ																	○	○	○	○	○	○	○	○				
	ハラオカメコオロギ														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	ミツカドコオロギ																		○										
	タンボコオロギ						○																						
マツムシ科	エンマコオロギ											△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	アオマツムシ																	○	○	○	○	○	○						
	マツムシ																						○						
ヒバリモドキ科	カンタン																						○	○					
	クサヒバリ															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	キンヒバリ							○	○	○	○						○	○											
	カヤヒバリ							○																					
	マダラスズ				○			○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
カネタタキ科	シバズ									○	○								○	○	○	○	○						
	カネタタキ															△	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ							○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○					
	オンブバッタ属														△	△				△									
ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ				○																								
バッタ科	ツチイナゴ			○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○				
	コバネイナゴ																												
	ショウリョウバッタ										△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○								
	ショウリョウバッタモドキ																		△	○	○								
	トノサマバッタ									○	○	○	○						○										
	クルマバッタモドキ										○																		
	マダラバッタ																												
	イボバッタ													○	○	○	○	○	○					○					

あり、アカハネオンブバッタの優占状態に変化はみられない。草原の指標種として注目しているショウリョウバッタモドキは 2015 年以来毎年確認され、調査地内で偏在しているものの、個体数の明らかな減少は認められない。

2023 年の 37 種という種数は、月に 3 回の調査を行った 2005 年、2006 年、2022 年と大きく変わらない値であったが、昨年の報告書でも記したように、ササキリモドキ、ノミバッタ、トゲヒシバッタ、ハネナガヒシバッタなどが、近年に確認が困難になった種としてあげられる。

3. ナナフシ目

6 月 1 日にナナフシモドキの幼虫を 16 個体確認し、これまでの調査における 1 日の最多確認数であった（図 5）。その後、6 月 10 日、6 月 20 日、7 月 3 日にそれぞれ幼虫を 9 個体、3 個体、2 個体確認し、8 月 21 日にはメス成虫の轢死体 1 個体を確認した。個体数のカウントを始めた 2018 年は合計 1 個体、その後 3 年間確認がなく、2022 年が合計 3 個体であり、今回の合計個体数 30（+1 死体）は突出して多い結果であった。



図 5. ナナフシモドキ幼虫
(2023 年 6 月 1 日)

4. カマキリ目

オオカマキリ 68 個体（合計で 50 幼虫+12♂6♀、以下同様）、チョウセンカマキリ 1 個体（1 幼虫）、ハラビロカマキリ 26 個体（20 幼虫+6♂）、およびサツマヒメカマキリ 1 個体（1 幼虫）の 4 種を確認した（表 3）。

表3. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認されたカマキリ目
「△」印は幼虫、「○」印は成虫による確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
カマキリ科	オオカマキリ			△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	○	○		○	○		○	○		○				
	チョウセンカマキリ									△																		
	ハラビロカマキリ										△	△	△	△	△	△	○			○	○	○						
ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ																△											

優占種のオオカマキリに関して、月 3 回の調査を行った 2005 年と 2006 年はそれぞれ、合計 178 個体と 164 個体、2022 年は 29 個体であった。前年からの増加は周回路の開通やナラ枯れ木の伐採により、草地在やや増えたことが原因かもしれない。ただし、2005-2006 年との比較では大幅な減少と言える。チョウセンカマキリに関しては、当時から水田環境があるにも関わらず、昨年同様、少数個体しか確認されなかった。その原因として、林縁と離れた水田があるのでオオカマキリとの種間関係のみとは考えにくく、優占地となり得る水田内で先述したキンヒバリの例外的なケースを除いて餌となる昆虫をほとんど見ないことが考えられる。



図 6. オオカマキリ若齢幼虫
ヤドリバエ卵付着
(2023 年 5 月 22 日)

ヤドリバエの寄生に関しては、オオカマキリ幼虫において、5 月 22 日に 2 個体、7 月 11 日に 1 個体、8 月 3 日に 1 個体、チョウセンカマキリ幼虫では 6 月 10 日に 1 個体、ヤドリバエの卵付着個体（図 6）を確認した。他のカマキリの寄生者（利用者）に関しては、カマキリタマゴカツオブシムシとオナガアシブトコバチともに確認されなかった。

5. カメムシ目

セミ科では、クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミが毎年、鳴き声によって確認される種であり、その他、ミンミンゼミの鳴き声が 8 月 21 日と 9 月 1 日に確認された（表 4）。チッチゼミは 2015 年が最後の確認年となっていて（表 8 参照）、ハルゼミはおそらく 2018 年における自然遊学館主催の「千石荘講座」における確認が最後である（貝塚市立自然遊学館、2020）。

2021 年に当地で初めて確認された外来種のチュウゴクアミガサハゴロモは、2022 年にはベッコウハゴロモやアオバハゴロモよりも個体数が多くなり、2023 年も完全にハゴロモ類の優占種となっていた。ガガイモ上でキョウチクトウアブラムシとヒメジュウジナガカメムシが目立つこと、キマダラカメムシの確認、チャバネアオカメムシやミナミアオカメムシの少なさ、オオモンシロナガカメムシがおそらく周回路と外周路の整備によって確認しやすくなったこと、および山地性とされ

るハリカメムシが外周路沿いに見られることも、2022 年と同様の結果であった（岩崎、2025）。

表4. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認された主なカメムシ目
「△」印は幼虫、「○」印は成虫、および「G」は虫食いによる確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
セミ科	ニイニゼミ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
	アブラゼミ											○	○	○	○	○												
	クマゼミ											○	○	○	○	○												
	ツクツクボウシ											○	○	○	○	○	○	○	○	○								
	ミンミンゼミ															○	○											
テングスケバ科	ツマグロスケバ															○					○		○					
アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ											○	○	○	○	○												
	チュウゴクアミガサハゴロモ							△	○	○	○	○	○				△	△	○	○	○		○			○		
アブラムシ科	ハゼアブラムシ							○	○																			
	マメアブラムシ			○																								
	キョウチクトウアブラムシ													△○		△○	○											
	クサギアブラムシ																				△							
	セイヨウアザチソウヒゲナガアブラムシ							○	○	○								○	○									
	ソラマヒゲナガアブラムシ			○																								
	ヤノクナガオオアブラムシ										△○	△○	△○	△○	△○	△○	○	○	○	○	△○	△○	○	○	△○	○	○	○
	サクラコアブラムシ			G			G		G	G																		
	クリオオアブラムシ																					○						
	ヌルデシロアブラムシ															G	G	G	G	G	G	G						
	エノキウタアブラムシ							○	○	○		○					G	G	G	G	G	G	○	○				
カメムシ科	ナガメ							○	○																			
	クサギカメムシ			○								△	△					○			△							
	シロヘリカメムシ										△○																	
	ミナミアオカメムシ																				△○	△○		○	△○	○		
	チャバネアオカメムシ																	△							○			
	キマダラカメムシ											△					△											
	エビイロカメムシ													△		○												
マダラナガカメムシ科	ヒメジュウジナガカメムシ			○									○					○	△○	○								
ヒョウタンナガカメムシ科	オオモンシロナガカメムシ												△○	△	△	△	△	△	△○	○								
ヘリカメムシ科	ホソハリカメムシ				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
	ハリカメムシ			○	○	○		○									○				○							

前回の報告書で述べたように、クスノキに付く外来種のクスベニヒラタカスミカメは2019年以降確認されていない（表8参照）。せんごくの杜のクスノキがほとんど樹高15mを越えるようなもののばかりなので（上久保、2020参照）、見取り法では目にする機会がないのかもしれない。クスノキの落葉には食痕と思われるものが付いているが、確実に新鮮という食痕は確認できなかった。

6. コウチュウ目

2013年以來9年ぶりとなる2022年に意外に多くの個体数が確認されたコハンミョウは、今回も林縁、外周路、水田の畦において、7月24日から8月21日にかけて、60個体以上が確認された（表5）。各調査日の個体数は順に、約20、約30、約10、および2個体であり、合計個体数は昨年とほぼ同数であった。

伐採された樹木や衰弱木に生えた菌類には、ミヤマオビオオキノコやルリオオキノコ、あるいはユミアシゴミムシダマシ、ナガニジゴミムシダマシ、オオクチキムシなどが集まっていることがあった。

カミキリムシ科は6種が確認され、そのうちカタジロゴマフカミキリ（図7）は二次林の普通種とされるが、自身の調査で確認されたのは初めてである。また、ヤツボシハナカミキリは昨年と同じく春に1個体が確認された。

外来種に関して、ブタクサハムシは昨年と同じく、外周路のオオブタクサに大量発生が見られ、



図7. カタジロゴマフカミキリ
(2023年7月24日)

ヨツモンカメノコハムシはアサガオ類以外の植物上でも見られる状態であった。それに対して、ムネアカオオクロテントウは4月22日に1個体が確認されたのみで、増加傾向にあるとは言えない。

表5. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認された主なコウチュウ目
「△」印は幼虫、「○」印は成虫、「P」は蛹、「E」は上翅のみによる確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
ハンミョウ科	コハンミョウ												○	○	○	○												
クワガタムシ科	コクワガタ									○				○	○			○		○	○							
コガネムシ科	カブトムシ	△	△	△	△									○	○	D		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
タマムシ科	タマムシ									E				○	E		○											
	ウグイスナガタマムシ			○			○			○																		
	ヒシモンナガタマムシ			○			○	○	○								○	○	○	○		○	○	○				
	クズノチビタマムシ				○	○		○					○															
	ナミガタチビタマムシ							○																				
オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコ				○		○																					
	ルリオオキノコムシ		○					○	○	○	○				○													
	アカハバヒロオオキノコ	○																										
テントウムシ科	ムネアカオオクロテントウ			○																								
カミキリムシ科	ベニカミキリ			○																								
	トゲヒゲトラカミキリ						○																					
	ヨツシジラカミキリ											○																
	ヤツボシハナカミキリ				○																							
	ナガゴマフカミキリ									○					○													
	カタジロゴマフカミキリ												○															
ハムシ科	フタクサハムシ														△P	PO	△	P										
	ヨツモンカメノコハムシ			○	○			○	○	○														○				

ナラ枯れに関して、2022年に確認されたカシノナガキクイムシとその天敵と考えられるルイスホソカタムシは、それらを確認したクヌギの木が伐採されたため、成虫では確認されなかった。ただし、カシノナガキクイムシの穿孔、およびそこから滲出する樹液は相変わらず別のクヌギの樹幹において確認された。

7. ハエ目

ハグロケバエは4月3日に蛹を約50個体確認し（表6）、一部を飼育して2日後に成虫を得た。自身の調査でオオイシアブ（図8）を確認したのは初めてであるが、5月の3回の調査においていずれも複数個体を確認した。2013年以来確認されていなくて昨年におそらく調査回数を増やしたことによって確認されたと思われるハチモドキハナアブは、今回も5月22日に1個体が確認された。ただし、以前より密度が減少していることは確実である。ナガズヤセバエ科に関して、これまでの調査ではほとんどがホシアシナガヤセバエであったが、9月21日に同じクヌギの樹幹でモンキアシナガヤセバエと同時に1個体ずつが確認された。



図8. オオイシアブ
(2023年5月22日)

表6. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認された主なハエ目

「○」印は成虫、「P」は蛹、「G」は虫えいによる確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
クバエ科	ハグロケバエ	P	○																									
タマバエ科	ヨモギウタマバエ			G										G	G					G	G	G	G	G	G	G	G	G
	ヨモギクコブタマバエ																				G			G				
	ヨモギエボシタマバエ							G																				
	クストガリタマバエ								G		G	G																
	エノキトガリタマバエ			G	G	G	G																					
ミズアブ科	ウリウロコタマバエ											G																
	ミズアブ							○						○														
	コウカアブ										○	○																
	ルリミズアブ																							○	○			
	アメリカミズアブ														○			○										
ハラキンミズアブ									○																			
ムシヒキアブ科	オオイシアブ				○	○	○																					
ハナアブ科	ハチモドキハナアブ						○																					
ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ										○			○				○	○									
	モンキアシナガヤセバエ																	○										
ヤドリバエ科	カマキリヤドリバエ						卵		卵			卵		卵														

8. チョウ目

チョウ類は、表7に示した33種が確認された。種数は昨年と同じであるが、今回、ツマキチョウ、ダイミョウセセリ、キマダラセセリが確認された分、アサマイチモンジ、イシガケチョウ、ヒメアカタテハが確認されなかった。ツマキチョウは調査期間外の3月10日に1♂、3月20日に1♀を確認されていて、4月開始の調査ではその年の気候によって確認にばらつきが生じるものと推測された。また、幼虫で確認されたのが12月21日のゴマダラチョウだけなので、チョウ類への関心がそれほど高くないものと判断していただきたい。長らく確認していない種としてはヒオドシチョウとミズイロオナガシジミがあげられ、それぞれ2016年と2013年が最後の確認年となっている。

表7. 2023年4月から12月にかけて、せんごくの杜において確認されたチョウ類

「△」印は幼虫、「○」印は成虫による確認であることを示す。

科	種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		3日	10日	22日	1日	11日	22日	1日	10日	20日	3日	11日	24日	3日	10日	21日	1日	10日	21日	2日	12日	23日	2日	14日	20日	4日	11日	21日
アゲハチョウ科	ナミアゲハ	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○								
	キアゲハ											○																
	クロアゲハ						○							○	○		○											
	モンキアゲハ					○									○													
	ナガサキアゲハ			○	○								○	○	○		○											
	アオスジアゲハ	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			○								
シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	モンキチョウ		○	○	○	○	○	○	○	○																		
	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○			○	○	○			
	ツマキチョウ		○																									
	タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ		○	○	○	○	○	○	○			○					○	○									
	ヒメジャノメ							○																				
	ヒカゲチョウ								○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○						
	クロコノマチョウ	○			○						○							○	○	○	○	○	○		○			
	サトキマダラヒカゲ			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
	コミスジ		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○									
	ルリタテハ	○	○													○												
	キタテハ	○	○	○		○	○	○					○						○				○	○				
	ゴマダラチョウ													○			○										△	
	ツマダラクロヒョウモン			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○					○	○	○		○		
	テングチョウ	○	○	○	○	○	○		○																			
シジミチョウ科	ウラギンシジミ										○	○	○								○	○						
	ムラサキシジミ			○					○							○					○	○				○		
	ヤマトシジミ		○	○	○	○		○				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ウラナシジミ			○										○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ツバメシジミ					○		○	○					○	○						○							
	ルリシジミ	○	○									○				○												
	ベニシジミ			○		○		○	○					○	○													
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ											○	○				○	○										
	イチモンジセセリ													○	○	○	○	○	○			○						
	チャバネセセリ														○	○	○	○		○	○	○		○				
	コチャバネセセリ			○	○					○					○													
	キマダラセセリ							○	○	○	○				○		○	○	○	○	○	○						

昨年に初めてながら3調査日で確認されたナシケンモンの幼虫、および注目種にあげているコシロシタバは、今回は確認されなかった。自然遊学館に標本がないか少ない種としては、ハガタフタオ（6月10日）、シロオビクロコケガ（7月24日、図9）、ツマジロエダシャク（10月12日）があげられる。

奇妙な確認として書き残しておくべきことは、オオミズアオの翅のみが4月22日、5月22日、8月3日に、それぞれ1枚ずつ周回路において確認されたことである。これは鳥類による食べ残しである可能性が高いと思われる。

以下、付図の速報に掲載しなかったヒロバモクメキリガの幼虫（図10）、ヒメネジロコヤガ（図11）、ツマジロエダシャク（図12）の画像を示した。



図9. シロオビクロコケガ
(2023年7月24日)



図10. ヒロバモクメキリガ幼虫
(2023年4月22日)



図11. ヒメネジロコヤガ
(2023年7月11日)



図12. ツマジロエダシャク
(2023年10月12日)

また、10月12日にセンダンの茎に止まっているのを確認したフトスジエダシャクの幼虫が次の2調査日に場所を変えずにいて、11月20日にサムライコマユバチ亜科の繭とともに動かなくなっているのを確認した。

9. ハチ目

注目種としては、ニホンミツバチが4月3日と5月11日に確認された（表8参照）。キコシホソハバチ（図13）は、自身のせんごくの杜における調査で確認されたのは初めてである。ただし、自然遊学館には貝塚市蕎原や和泉葛城山の標本が所蔵されている。確認されたツチバチ科4種、スズメバチ科8種、アリ科16種はいずれも普通種と呼べるものであった。

外来種としては、セイヨウミツバチが10調査日で、ツマアカベッコウが8月3日に、タイワンタケクマバチが8月21日と9月1日に確認された。3種とも、2022年の調査でも確認されている種である。



図13. キコシホソハバチ
(2023年5月1日)

10. その他の目

ゴキブリ目では、10回の調査日で確認されたモリチャバネゴキブリのほか、ヒメクロゴキブリの幼虫が11月14日に、クロゴキブリの幼虫が4月22日と8月21日に確認された。

ハサミムシ目はヒゲジロハサミムシのみが9調査日において、シロアリ目ではヤマトシロアリの有翅虫が5月1日に確認された。

チャタテムシ目では、3調査日で確認された *Valenzuela scriptus* のほかに、クロミyakチャタテ（図14）が11月20日に確認された。自身が経年で調査を行っている貝塚市三ヶ山の市営公園墓地でも、和泉市の信太山（現在は信太山丘陵里山自然公園）においても、クロミyakチャタテが2023年に初めて確認されている。3箇所の調査地での初確認年の一致は、偶然ではなく何らかの理由があるものと推測される。



図14. クロミyakチャタテ
(2023年11月20日)

アミメカゲロウ目も、チャタテムシ目と同じく、スウィーピングを行わない調査では極端に種数が少なくなってしまうが、アミメクサカゲロウが9月1日に、ホソバヒメカゲロウが10月23日確認された。

11. 大阪府レッドリスト種と注目種

2005年と2006年、および2011年から2023年までの調査で確認された大阪府レッドリスト種、および注目種を表8にまとめた。表1から表7までと同じく、表8のテキスト文でもせんごくの杜を使用しているが、2021年の報告分（岩崎、2024）までは「千石荘」という表記を用いていた。

注目種は、里山的環境の指標となる種、防除上重要と思われる種、外来種（国内外来種を含む）、2014年の大阪府レッドリストの改定によりランク外とされた種、および経年調査により確認年のパターンが極端な変化を示した種などを含み、これまでの報告分において随時変更を加えてきたものである。

表8では、2005年、2006年、および2022年、2023年が月3回の調査であるのに対して、2011年から2021年までは月1回の調査で、調査日数が異なることにも注意していただきたい。この中で、せんごくの杜ばかりでなく、自然遊学館の貝塚市内における報告で採集記録が途切れている種はナツアカネであり、1990年代に30個体近くの標本があるにも関わらず、2000年代に入って激減し、2006年10月14日の貝塚市二色市民の森「トンボの池」の1♀（鈴子佐幸採集）が最後の記録になっている。

表8. せんごくの杜において2005年、2006年、および2011年～2023年に行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種および注目種

項目	目	科	種	2005年	2006年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
絶滅危惧Ⅱ類	トンボ目	トンボ科	ナニワトンボ		○				○									
準絶滅危惧	トンボ目	イトトンボ科	ベニイトトンボ	○	○			○	○	○	○							
			キイトトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		サナエトンボ科	ウチワヤンマ							○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ヤンマ科	サラサヤンマ												○	○	○	○
		トンボ科	コフキトンボ														○	○
			アキアカネ	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○
			ナツアカネ	○														
			ヒメアカネ														○	
			ノシメトンボ	○	○	○	○											
			ヨツボシトンボ							○			○					
	バッタ目	コオロギ科	ナツノツツレサセコオロギ						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コウチュウ目	テントウムシ科	ジュウサンホシテントウ									○						
	チョウ目	セセリチョウ科	ホソバセセリ						○									
		コブガ科	ウスアオリンガ							○	○							
注目種	トンボ目	サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ	○									○	○		○		○
		トンボ科	マユタテアカネ													○	○	
	バッタ目	コオロギ科	タイワンエンマコオロギ														○	
		マツムシ科	マツムシ	○	○	○	○			○			○	○				○
			カンタン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
		ヒバリモドキ科	ウスグモスズ			○						○	○	○				
		オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ									○	○	○	○	○	○	○
		バッタ科	ショウリョウバッタモドキ	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○
			クルマバッタ														○	
	カマキリ目	ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ		○		○	○		○					○		○	○
			ヒメカマキリ						○									
	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ	○		○		○				○	○				○	○
	カメムシ目	セミ科	ミンミンゼミ	○		○								○			○	○
			チツゼミ	○	○		○	○	○	○								
		ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ															○
		カスミカメムシ科	クスベニヒラタカスミカメ							○	○	○		○				
		キンカメムシ科	オオキンカメムシ	○														
		ヘリカメムシ科	ハリカメムシ														○	○
	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ	○	○		○	○	○				○	○				○
		ラクダムシ科	ラクダムシ			○												
	コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ			○		○									○	○
		クワガタムシ科	ヒラタクワガタ	○	○											○	○	
		コガネムシ科	カブトムシ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		テントウムシ科	ムネアカオオクロテントウ										○				○	○
		ホソカタムシ科	ルイスホソカタムシ														○	
		ハムシ科	ヨツモンカメノコハムシ												○	○	○	○
		ナガキクイムシ科	カシノナガキクイムシ														○	
	ハエ目	シギアブ科	キアシキンシギアブ	○		○	○			○					○	○	○	
		ハナアブ科	ハチモドキハナアブ	○	○	○	○	○									○	○
	チョウ目	シロチョウ科	ツマキチョウ	○	○	○							○					○
		シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ		○			○										
		ヤガ科	コシロシタバ				○	○					○				○	
	ハチ目	コシブトハナバチ科	ニッポンヒゲナガハナバチ		○					○								
			シロスジヒゲナガハナバチ			○								○	○	○		
		ミツバチ科	タイワンタケクマバチ														○	○
			ニホンミツバチ		○	○				○					○	○	○	○

以下、本文中や表中において和名のみで紹介した種に関して、表9に学名を示した。

表9. 本文および表中に記された種の和名と学名

トンボ目（表1より）	
和名	学名
ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>
オオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>
オオイトイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>
キイトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>
アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>
ウチヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus clavatus</i>
ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>
クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>
サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>
シオカトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>
シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>
オシオオカトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>
コフキンボ	<i>Deielia phaon</i>
リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>
マユタチアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>
アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>
ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>
チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>
コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>
ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>

バツ目（表2より）	
和名	学名
クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>
クビキリギス	<i>Euconocephalus thunbergi</i>
ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>
オナガササキリ	<i>Conocephalus gladiatus</i>
ウスガロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>
ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>
キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>
ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>
セムシツムシ	<i>Ducetia japonica</i>
サトウダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>
ナツノツツシサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>
ツツシサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>
モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>
ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>
ミツガコオロギ	<i>Loxoblemmus doentzi</i>
タンボコオロギ	<i>Modicogryllus siamensis</i>
コガタコオロギ	<i>Velarifictorus ornatus</i>
エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>
タイワンエンマコオロギ	<i>Teleogryllus occipitalis</i>
アオマツムシ	<i>Trujalia hibinonis</i>
カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>
クサヒバリ	<i>Swistella bifasciata</i>
キンヒバリ	<i>Natula matsurai</i>
カヤヒバリ	<i>Natula pallidula</i>
マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>
シバズズ	<i>Polionemobius mikado</i>
カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>
サトアリツカコオロギ	<i>Myrmecophilus teramorii</i>
アカハネオンブバツタ	<i>Atractomorpha sinensis sinensis</i>
オンブバツタ	<i>Atractomorpha lata</i>
ハラヒシバツタ	<i>Tetrix japonica</i>
ヒシバツタ属	<i>Tetrix</i> sp.
ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>
コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>
ショウリョウバツタ	<i>Acrida cinerea</i>
ショウリョウバツタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>
トノサマバツタ	<i>Locusta migratoria</i>
クルマバツタモドキ	<i>Oedeleus infernalis</i>
クルマバツタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>
マダラバツタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>
イボバツタ	<i>Trilophidia japonica</i>

カマキリ目（表3より）	
和名	学名
オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>
チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>
ハラヒロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>
コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>
サツマヒメカマキリ	<i>Acromantis australis</i>

カメムシ目（表4より）	
和名	学名
クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofasciata</i>
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>
ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>
ニイニイゼミ	<i>Platycleura kaempferi</i>
ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonica</i>
アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>
チュウゴクアミガサハゴロモ	<i>Ricania shantungensis</i>
ヤノクナガオアブラムシ	<i>Stomaphis yanonis</i>
ビワコフオアブラムシ	<i>Tuberolachnus macrotuberculatus</i>
キョウチクトウアブラムシ	<i>Aphis nerii</i>
トビロオオヒラタカメムシ	<i>Neuroctenus castaneus</i>
キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>
クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>
ミナミアオカメムシ	<i>Nezara viridula</i>
チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>
ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>
ヒメジウウジナガカメムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i>
ホノバリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>
ハリカメムシ	<i>Cletus rusticus</i>

コウチュウ目（表5より）	
和名	学名
コハンミョウ	<i>Myriochile specularis</i>
ヒラタウワガタ	<i>Dorus titanus</i>
コクウガタ	<i>Dorus rectus</i>
コフキコガネ	<i>Melolontha japonica</i>
クリイロコガネ	<i>Miliodaba castanea</i>
カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i>
ヒゲナガハナノミ	<i>Paralichas pectinatus</i>
カマキリタマゴカツオブシムシ	<i>Thaumaglossa rufocapillata</i>
セマダラナガシンクイ	<i>Lichenophanes carinipennis</i>
ミヤマビオオオキノコ	<i>Episcapha gorhami</i>
ルリオオキノコムシ	<i>Aulacochilus sibiricus</i>
ムネアカオオクロテントウ	<i>Synona consanguinea</i>
ルイスホノカタムシ	<i>Gempylodes lewisii</i>
ヤツボシハナカズキリ	<i>Leptura mimica</i>
キマダラカズキリ	<i>Aeolesthes chrysothrix chrysothrix</i>
ベニカズキリ	<i>Purpuricenus temminckii</i>
エグリトラカズキリ	<i>Chlorophorus japonicus</i>
ナガゴマフカズキリ	<i>Mesosa longipennis</i>
キボシカズキリ	<i>Psacotheta hilaris hilaris</i>
クワカズキリ	<i>Apriona japonica</i>
ハイレロヤハズカズキリ	<i>Niphona furcata</i>
ヒトロビアラゲカズキリ	<i>Rhopaloscelis unifasciatus</i>
フタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>
ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacocoptera quadrimaculata</i>
シロヒゲナガゾウムシ	<i>Platystomos sellatus</i>
トホシオサゾウムシ	<i>Aplothes roelofsi</i>
ガシノナガキウイムシ	<i>Platypus quercivorus</i>

ハエ目（表6より）	
和名	学名
ミスジガガンボ	<i>Gymnastes flavitibia</i>
キアシキンシキアブ	<i>Chrysopilus ditissimis</i>
フタバホシヒラタアブ	<i>Eupeodes corollae</i>
オオフタバホシヒラタアブ	<i>Syrphus ribesii</i>
オオヒメヒラタアブ	<i>Allograpta iavana</i>
ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>

チョウ目（表7より）	
和名	学名
ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>
キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>
クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>
モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>
ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>
アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>
キチョウ（キタキチョウ）	<i>Eurema mandarina</i>
モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>
モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>
ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>
ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>
ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>
クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i>
サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>
コムシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>
アサマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>
ルリタテハ	<i>Kanisa canace</i>
キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>
ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>
イシガケチョウ	<i>Oyrestis thyodamas</i>
ゴマダラチョウ	<i>Hestina persimilis japonica</i>
ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>
テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>
ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>
ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>
ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>
ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>
ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i>
ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>
ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>
イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>
チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>
コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>

注目種（表8のみ）	
和名	学名
ナニワトンボ	<i>Symoetrum gracile</i>
ベニイトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>
サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>
ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>
ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>
ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>
ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>
ジュウサンホシテントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i>
ホノバセセリ	<i>Isoetion lamprospilus lamprospilus</i>
ウスアオリンガ	<i>Paracrama angulata</i>
タイワンウチヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i>
マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i>
ウスグモスズ	<i>Amusurgus genji</i>
ヒメカマキリ	<i>Acromantis japonica</i>
チツゼミ	<i>Kosemia radiator</i>
クスベニヒラカスミカメ	<i>Mansonella cinnamomi</i>
オオキンカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>
アミメクサカゲロウ	<i>Necaura matsumurae</i>
ラクダムシ	<i>Inocellia japonica</i>
ミスイロオナガシジミ	<i>Antigys attila</i>
コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>
ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Tetralonia nipponensis</i>
シロスジヒゲナガハナバチ	<i>Eucera spurcatipes</i>
ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>

その他の昆虫（本文中のみ、上記以外）	
和名	学名
ホトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>
オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>
モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>
ヒメクログキブリ	<i>Sorineuchora nigra</i>
ヒゲジロハサミムシ	<i>Gonolabis marginalis</i>
ハゼアブラムシ	<i>Toxoptera odinae</i>
マメアブラムシ	<i>Aphis craccivora</i>
ギンギシアブラムシ	<i>Aphis rumicis</i>
セイヤカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>
タイワンヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon formosanum</i>
ソラマメヒゲナガアブラムシ	<i>Megoura crassicauda</i>
サクラコブアブラムシ	<i>Tuberoccephalus sakurai</i>
イソホシアカマダラクサカゲロウ	<i>Pseudomallada cognatellus</i>
ホノバヒメカゲロウ	<i>Micromus linearis</i>
カスリヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus nipponensis</i>
アカマダラハナムグリ	<i>Poecilophilides rusticola</i>
ヒメグワタタマバエ	<i>Rhopalomyia girdalii</i>
ヨモギクキコブタマバエ	<i>Rhopalomyia struma</i>
ヨモギシロクワフシタマバエ	<i>Rhopalomyia cinerarius</i>
クズトガリタマバエ	<i>Pitydiplois pueariae</i>
エノキトガリタマバエ	<i>Celticecis japonica</i>
カマキリヤドリバエ	<i>Exorista bisetosa</i>
ツマキチョウ	<i>Anthochaera scolymus</i>
ムナフビヒメスカシバ	<i>Trichocerotia constricta</i>
ヒメクロバ	<i>Artona funeralis</i>
オオトビスジエダシヤク	<i>Ectropis excellens</i>
フタナミトビヒメシヤク	<i>Pylargosceles steganoides</i>
カシノマイマイ	<i>Lymantria mathura aurora</i>
ナンケンモンシ	<i>Viminea rumicis</i>
キンタアツバ	<i>Hypera claripennis</i>
ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsycha infascia</i>
オナガアシフトコバチ	<i>Podagrion nipponicum</i>
オオツマグロハバチ	<i>Tenthredo providens</i>
オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>
コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>
ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>
クロナガアリ	<i>Messor aciculatus</i>
ヒメオオズアリ	<i>Pheidole pيلي</i>
オオズアリ	<i>Pheidole noda</i>
タイワンタケクマバチ	<i>Xylocopa tranquebarorum</i>
ツマアカベッコウ	<i>Tachypompilus analis</i>

植物および菌類（本文中、登場順）	
和名	学名
カエンタケ	<i>Trichoderma cornu-damae</i>
オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>
ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>
クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>
リュウキュウアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>
ヒルガオ	<i>Calystegia pubescens</i>
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>

謝辞

貝塚市せんごくの杜の動植物に関してご教示いただいた秋武仁志、鞍井希風、佐々木仁、澤田智子、天満和久、藤村雅志、山口隼平の各氏、およびせんごくの杜のボランティアの方々に謝意を表する。

引用文献・参考文献

- 石井 実・青柳正人・岩崎 拓・中谷至伸・上田達也（1997） 貝塚市千石堀城址周辺の昆虫。「貝塚市自然環境調査報告書（1996 年度）」、pp. 31-46、貝塚市立自然遊学館。
- 岩崎 拓（2006） 千石荘の昆虫Ⅰ．貝塚の自然 第 9 号：1-11.
- 岩崎 拓（2008） 千石荘の昆虫Ⅱ（2006 年度調査）．貝塚の自然 第 10 号：24-35.
- 岩崎 拓（2013） 千石荘の昆虫（2011 年度調査）．貝塚の自然 第 15 号：5-14.
- 岩崎 拓（2016） 千石荘の昆虫（2012-2013 年度調査）．貝塚の自然 第 17 号：74-87.
- 岩崎 拓（2018） 千石荘の昆虫（2014-2015 年度調査）．貝塚の自然 第 19 号：66-80.
- 岩崎 拓（2020） 千石荘の昆虫（2016-2017 年度調査）．貝塚の自然 第 21 号：39-54.
- 岩崎 拓（2024） 千石荘の昆虫（2018-2021 年度調査）．貝塚の自然 第 23 号：12-38.
- 岩崎 拓（2025） せんごくの杜の昆虫（2022 年調査）．貝塚の自然 第 24 号：30-51.
- 上久保文貴・湯浅幸子・岩崎 拓（2016） 千石荘植物調査（2012-2013 年度）．貝塚の自然 第 17 号：44-73.
- 上久保文貴・湯浅幸子・白木江都子・鈴子勝也・岩崎 拓（2020） 千石荘樹木調査（2012-2018 年）．貝塚の自然 第 20 号：1-22.
- 大阪府（2014） 「大阪府レッドリスト 2014」. 48pp.、大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室.
- 環境庁（1997） 都道府県別メッシュマップ 27 大阪府. 36pp.、環境庁自然保護局計画課自然環境調査室.
- 貝塚市立自然遊学館（2015） 千石荘周辺の動植物とその保全について．貝塚市立自然遊学館報 No. 1（2013 年度）：7-12.
- 貝塚市立自然遊学館（2017） 千石荘昆虫調査（講座）2015．貝塚市立自然遊学館報 No. 3（2015 年度）：4-8.
- 貝塚市立自然遊学館（2018） 千石荘昆虫調査（講座）2016．貝塚市立自然遊学館報 No. 4（2016 年度）：4-11.
- 貝塚市立自然遊学館（2019） 千石荘昆虫調査（講座）2017．貝塚市立自然遊学館報 No. 5（2017 年度）：4-11.
- 貝塚市立自然遊学館（2020） 千石荘昆虫調査（講座）2018．貝塚市立自然遊学館報 No. 6（2018 年度）：4-10.
- 貝塚市立自然遊学館（2021） 千石荘昆虫調査（講座）2019．貝塚市立自然遊学館報 No. 7（2019 年度）：4-11.
- 気象庁・気象統計 <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html> （2024 年 1 月）

- 神戸のトンボ <https://www.odonata.jp/index.html> (2024 年 1 月)
- 昆虫エクスプローラー <https://www.insects.jp/> (2024 年 1 月)
- 鈴木知之・横田光邦・筒井 学 (2020) 『イモムシとケムシ チョウ・ガの幼虫図鑑 (小学館の図鑑・NEO、第 3 刷)』、広渡俊哉・矢後勝也監修、小学館、159pp.
- 竹内正人 (2009) 『写真集 ハナアブ 300』、双翅目談話会、300pp. (+日本のハナアブ科暫定リスト 8pp. +和名索引 4pp.)
- みんなで作る日本産蛾類図鑑 V2 <http://www.jpmoth.org/> (2024 年 1 月)
- 村井貴史・伊藤ふくお (2011) 『バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑』、日本直翅類学会監修、北海道大学出版会、449pp.
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫 (2000) 『日本原色カメムシ図鑑』、友国雅章監修、全国農村教育協会、380pp.
- 湯川淳一・榊田 長編著 (2002) 『日本原色虫えい図鑑』(初版第 3 刷)、全国農村教育協会、826pp.
- 吉田浩史・岩崎 拓 (2012) 大阪府貝塚市のハバチ亜目. 貝塚の自然 第 14 号 : 37-46.

付図

4 月から 11 月までの調査後すぐに、昆虫のほか、他の動植物、景観、農作業、気候なども含めて、せんごくの杜の自然を紹介するために調査速報 (日誌) を作成した。以下に、それらを付図として掲載した。

「千石荘」昆虫調査速報（2023年4月①）

2023年4月3日 天候：晴れ 調査者1名

3月下旬に比べて、アケビ、ノジスミレ、シデザクラ（右の写真）、ヤマモモなど花が咲いている植物の種数が増えて、昆虫の種数も増えました。その代わりと言っては何ですが、冬鳥とは別れのシーズンとなりました。



チョウ目 チョウ類9種

チョウ類は、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、クロコノマチョウ、カタテハ、ルリタテハ、テングチョウ、ルリシジミの9種を確認しました。視力の衰えから、クロコノマチョウが止まる場所さえ目で追うのが困難になりました。



ルリシジミ

その他の昆虫

ヤブキリの幼虫、ヒゲジロハサミムシ、コセアカアメンボ、ヨコツナサシガメの幼虫、ミツボシツチカメムシ、アカハバヒロオオキノコ、キリウジガガンボ、ハグロケバエの蛹、ホソヒメヒラタアブ、ツマグロキンバエ、オオクロハエ、クマバチ、ニホンミツバチなどを確認しました。



ホソヒメヒラタアブ

樹木の伐採

カシナガの被害を受けたコナラは以前から伐採されていました。この冬には、牛神池の近くに生えた2本のクヌギの太木が伐採されました。ずっとカブトムシやクワガタムシを見てきた木ですが、カシナガやその天敵が見られるようになった木でもあります。



伐採されたクヌギ

外周路

もう1点、この冬に景観が変わったのは、外周路の仮舗装と金属製の柵です。まだ一部だけで、今年も工事は続くのでしょうか。どんどん人工的な景観になりますが、自然には回復力があると信じたいです。農業用水路が流れているので、強力な除草剤が使われることはないでしょう。



外周路の柵

「千石荘」昆虫調査速報（2023年4月②）

2023年4月10日 天候：晴れ 調査者1名

草本では、レンゲ（右の写真）、トキワハゼ、オニタビラコ、スカシタゴボウ、カタバミ、ムラサキカタバミなどの花が咲きました。木本で目立つ花は、牛神池のほとりのクロバイや、周回路のモチツツジです。



チョウ目 チョウ類12種

チョウ類は、ナミアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ツマキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、コムシジ、カタテハ、ルリタテハ、テングチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミの12種を確認しました。ツマキチョウの写真がピンボケだったのが残念です。



ベニシジミ

コウチュウ目

倒木の下には、右の写真のエグリゴミムシダマシのほか、カブトムシの幼虫やルリオオキノコムシがいました。昨年確認できなかったモモトカミキリモドキはふつうにタンポポの花にいました。その他、クシコメツキ、ナナホシテントウ、サメハダツノミハムシなどを確認しました。



エグリゴミムシダマシ

ハエ目

ボタン池のほとりでアカムシユスリカを確認しましたが、もっと数が多いユスリカは種名が分かりませんでした。右の写真のフタホシヒラタアブは、スカシタゴボウから吸蜜しています。ハグロケバエやヒロウドツリアブは、この時期の常連といっていいでしょう。



フタホシヒラタアブ

その他

その他の昆虫として、ヤブキリの幼虫、ヒゲジロハサミムシ、クロヒラタヨコバイ、ヨコツナサシガメ（幼虫）、セグロアシナガバチ、ルリアリ、トビロケアリ、ウメマツオオアリ、クマバチなどを確認しました。先に述べたピンボケのツマキチョウの写真を掲載しておきます。



ツマキチョウ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年4月③）

2023年4月22日 天候：晴れ 調査者1名

寒暖を繰り返す日々の中、昆虫の種数は一気に増え、速報で70種以上を数えました。林床にオオアブラギリの花が落ちていました。他には、クロバイ、モチツツジ、ヤマツツジ、フジなどの木本が花を咲かせていました。



チョウ目 チョウ類16種

チョウ類は、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、サトキマダラヒカゲ、ムラサキシジミ、コチャバナセセリなど、16種を確認しました。ガ類では、オオミスアオの翅を拾い、幼虫で種名が分かったのはフクラスズメとヒメエグリバだけでした。



ヒメエグリバ幼虫

カメムシ目

カラスノエンドウには、マメアブラムシとソラマメヒゲナガアブラムシが付いていました。コナラの倒木には、ヨコツナサシガメの幼虫と成虫が集まっていた。その他、クサギカメムシ、ヒメジュウジナガカメムシ、ハリカメムシ、ホシハラヒロヘリカメムシなどを確認しました。



ハリカメムシ

コウチュウ目

右の写真は、エノキの葉に来ていたヒシモンナガタマムシです。タマムシ科では他に、ウグイスナガタマムシがいました。コナラの伐採幹に生えたキノコには、ヒメナガシジミムシダマシがいました。外来種ではムネアカオオクロテントウとヨツモンカメノコハムシを確認しました。



ヒシモンナガタマムシ

ハエ目

ベッコウガガンボが後脚をぶら下げて飛び様子が、アシナガバチのように見えました。右の写真は、ヒラタキノコバエ属の幼虫で、昨年もコナラの伐採幹に生えたホウロクタケで見ました。エノキの葉には、エノキトガリタマハエの虫こぶが多数出ていました。



ヒラタキノコバエ属幼虫

「千石荘」昆虫調査速報（2023年5月①）

2023年5月1日 天候：晴れ 調査者1名

一部の水田が耕されていたが、まだ水は入れられていません。樹木では、クスノキの花が多く咲いていました。でも、花が小さいので目立ちません。牛神池の周囲に生えているクロバイの花の時期は終わりがけでした。



チョウ目 チョウ類14種

チョウ類は、ナミアゲハ、キアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、クロコノマチョウ、サトキマダラヒカゲ、コムシジ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ヤマトシジミ、コチャバナセセリの14種を確認しました。



コチャバナセセリ

コウチュウ目

ミヤマオビオオキノコは、いくつかの場所で別々に発生しているようです。コナラやクヌギの伐採木に生えた菌類が増えていからでしょう。ヨツモンカメノコハムシは、植栽のサクラの葉上にいました。その他、ヤツボシハナミキリやムナグロツツハムシなどを確認しました。



ミヤマオビオオキノコ

ハエ目

右の写真は、ハナバチの仲間かと間違えてしまったオオイシアブです。セスジハリバエの方がピンと合っていたので、どちらを載せるか迷いました。その他は、セスジユスリカ、ヒロウドツリアブ、マガリケムシヒキ、アシフトハナアブなど常連の種ばかりを確認しました。



オオイシアブ

ハチ目

オオスズメバチやセグロアシナガバチの後に、キコシホソハバチを見ると、ちょっと驚かされます。ハバチの仲間なので刺すことはありません。和泉葛城山や葛原では採集例がありますが、千石荘で確認したのは初めてです。アリは5種で、活動個体数もまだまだ少ない目でした。



キコシホソハバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年5月②）

2023年5月11日 天候：晴れ 調査者1名

水田への水入れはまだ始まっていません。樹木の花はクロバイが終わり、カナメモチ、ガマズミ（右の写真）、ハゼノキなどの花が見られるようになりました。クスノキの花が真っ盛りでした。



チョウ目 チョウ類14種

アオスジアゲハの青い色が涼しげです。モンキアゲハのペアはじゃれ合いながら飛んでいました。サトキマダラヒカゲが飲み水を探して歩き回る姿は、見た記憶がありません。テングチョウの越冬成虫は翅の色落ちが厳しかった一生を物語っていました。



サトキマダラヒカゲ

コウチュウ目

コイチャコガネ、ヒゲナガハナノミ、キマワリ、ツツジトゲムネサルゾウムシを今期初めて確認しました。ハムシ科は、イタドリハムシ、クロオビカサハラハムシ、クロウリハムシ、ヨモギハムシの4種。その他、ヒメナガシゴミシダマシやエグリゴミシダマシなどを確認しました。



イタドリハムシ

ハチ目

ハラナガツチバチの和名が、シロオビハラナガツチバチに変わっているのを知りませんでした。ミツバチは、セイヨウミツバチとニホンミツバチの両方がいました。コガタスズメバチ、サトジガバチ、クマバチのほか、4種のアリを確認しました。



シロオビハラナガツチバチ

その他

ハエ目ではオオシシアブがやたらと目立ちます。トンボ目はシオカラトンボとオオシオカラトンボの2種、バッタ目もキリギリスの幼虫とツチイナゴの2種、ゴキブリ目はモリチャバネゴキブリの幼虫だけです。カメムシ目はツマクロオオヨコバイなどの常連の種ばかりでした。



ツチイナゴ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年5月③）

2023年5月22日 天候：晴れ 調査者1名

草の葉上では、イオウイロハシリグモの幼体が目立ちます。草本では、ドクダミ、ヒメジョオン、キキョウソウ、ヒメクマツツラなどが咲き始め、木本ではクロガネモチ（右の写真）の花を今シーズン初めて見ました。



チョウ目 チョウ類13種

チョウ類では、モンシロチョウが多く見られました。その他、ナミアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、サトキマダラヒカゲ、コミスジ、カタテハ、テングチョウなど。ガ類では、キスジホソマダラ、ウメスカシクロバ、マエキヒメジャク、オオミズアオ（翅のみ）などを確認しました。



キスジホソマダラ

コウチュウ目

アシナガオニゾウムシは、千石荘ではあまり見ない種です。クサギの葉に止まっていた。ハムシ科は、クロオビカサハラハムシ、クロウリハムシ、クロボシツツハムシ、サメハダツツノミハムシの4種。その他、トゲヒゲトラカミキリやコフキゾウムシなどを確認しました。



アシナガオニゾウムシ

ハエ目

ハチモドキハナアブを南側の林内にあるクヌギで見ました。そのクヌギもカシナガにやられているので、いずれ伐採されるでしょう。マダラアシナガバエを今シーズン初めて見ました。オオシシアブはたくさんいるので、余裕を持って撮影できるようになりました。



オオシシアブ

カマキリ目

カマキリヤドリバエの卵が付いたカマキリを久しぶりに見たなと思ってデータを見直すと、2017年の秋が最後でした。ところがこの日は、オオカマキリの幼虫3個体のうち2個体に卵が付いていました。オオカマキリの優占地と言えるほど、カマキリ自体の個体数は多くないのですが。



オオカマキリ幼虫

「千石荘」昆虫調査速報（2023年6月①）

2023年6月1日 天候：晴れ 調査者1名

一部の水田に水が入れられ、さっそくアオサギとダイサギがカエル獲りに来ていました。希少種の幼鳥は、なかなか巣立ってくれないようです。ケヤキ広場で、アオダイショウが樹上にいました。樹上注意！



チョウ目 チョウ類11種

アゲハチョウの仲間を見ませんでした。前回と同じく、モンシロチョウの個体数が多く、キタキチョウ、モンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲ、カタテハ、ツマクロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、キマダラセセリは1〜3個体でした。



キマダラセセリ

トンボ目 5種

コシアキトンボの個体数が一気に増えました。前回の調査でキイトンボを1個体見たので、今回は増えているかなと期待しましたが、まだ1個体だけでした。オオアイトンボ、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボも1個体だけの確認でした。



オオアイトンボ

バッタ目など

マダラスズとタンボコオロギが鳴いていました。いずれも今シーズン初です。ヤブキリは終齢幼虫でした。オオカマキリの幼虫は9個体いて、ヤドリバエ卵の付着はありませんでした。ナナフシモドキの幼虫を16個体も見たのは、記憶がありません。一部がクスの葉を食べていました。



ナナフシモドキ幼虫

コウチュウ目

残りの目は、これといった種がいなかったのですが、コイチャコガネがヤミイロカニグモに食われているシーンを撮影できたので、コウチュウ目にしました。マメコガネ、ナミガタチヒタムシ、ルリオオキノコムシ、ニセキベリコバネショウカイ、セボシショウカイなどを確認しました。

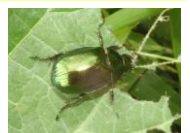


コイチャコガネ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年6月②）

2023年6月10日 天候：くもり 調査者1名

ほとんどの水田に水が入りました。大井谷池の堤は、草焼きが行われた後でした。濃くなる緑の中、コガネムシの金属光沢は、いつ見てもハッとさせられます。クモ類では、コガネグモを3個体確認したのが印象に残りました。



チョウ目 チョウ類14種

チョウ類はナミアゲハ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、コミスジ、キマダラセセリ、ムラサキシジミ、ベニシジミなどを確認しました。写真は自然遊学館に標本がないツバメガ科のハガタフタオで、頭がどこなのが戸惑いそうです。



ハガタフタオ

トンボ目 5種

コフキトンボが池の先に突き出た枯れ茎の先で、コシアキトンボの隣に止まっていた。千石荘ではそれほど多くない種です。その他、オオアイトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボを見ましたが、目当ての2種は確認できませんでした。



コフキトンボ

バッタ目など

キンヒバリ、カヤヒバリ、ナツノツツレサセコオロギの鳴き声を聞きました。写真は、サトクダマキモドキの始めの幼虫です。オオカマキリとチョウセンカマキリの幼虫は、それぞれ7個体と1個体を確認し、チョウセンカマキリの方にカマキリヤドリバエの卵が付いていました。



サトクダマキモドキ幼虫

カメムシ目

見慣れない花のような形をした白色の幼虫は、チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫でした。ヒシウンカ科の不明種は、綺麗な写真が撮れたのに、同定できないのが残念です。イトカメムシの交尾、シマサシガメの捕食シーンなど、載せたい写真がいろいろ撮れました。



チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫

「千石荘」昆虫調査速報（2023年6月③）

2023年6月20日 天候：晴れ 調査者1名

田植えが終わった水田の中では、ハシボソガラスが何かを狙っていました。たぶんヌマガエル幼生で、スクミリンゴガイではないと思います。今年はじめて、**ニイニゼミ**の鳴き声を聞きました。



チョウ目 チョウ類13種

チョウ類は**ナミアゲハ**、**アオスジアゲハ**、**モンシロチョウ**、**ヒカゲチョウ**、**テングチョウ**、**コチャバネセセリ**、**キマダラセセリ**、**ウラギンシジミ**、**ベニシジミ**などを確認しました。ガ類では、**ヒメアトスカシバ**や**カノコガ**、右の写真の**キハラゴマダラヒトリ**などを確認しました。



キハラゴマダラヒトリ

トンボ目 8種

シオカラトンボと**コシアキトンボ**は調査ルートのある場所において、**オオアイトトンボ**は牛神池周辺のみ、その他、**ウチワヤンマ**、**ギンヤンマ**、**オオシオカラトンボ**、**ショウジョウトンボ**、**チョウトンボ**の5種は、大井谷池で確認しました。



ウチワヤンマ

バッタ目

ヤブキリ、**キリギリス**、**トノサマバッタ**、**アカハネオンブバッタ**は成虫になりました。鳴き声のみでの確認は**キンヒバリ**、**マダラス**、**シバス**の3種です。ポタン池のほとりでは、**ナツノツツレサセコオロギ**のオス成虫を撮影することが出来ました。



ナツノツツレサセコオロギ

コウチュウ目

コナラの裁断幹の下に**コクワガタ**、**ルリオオキノコ**、**キマワリ**、**サトコミアシゴミムシ**がいました。掲載する写真としては**ナガゴマフカミキリ**も悩みました。**ヨツモンカメノコハムシ**はネザサの葉上に1個体だけいました。**タマムシ**は葉上に残っていた前翅のみでの確認です。



コクワガタ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年7月①）

2023年7月3日 天候：晴れ／くもり 調査者1名

蒸し暑くなりました。イネの葉が少し伸びた水田には**ダイサギ**が集まっていました。ツバメが飛んでいないのが不思議です。不思議と言えば、写真の牛神池でトンボをまったく見ませんでした。



チョウ目 チョウ類8種

チョウ類は**アオスジアゲハ**、**モンシロチョウ**、**キタキチョウ**、**ヒカゲチョウ**、**クロコノマチョウ**、**ウラギンシジミ**、**ルリシジミ**、**キマダラセセリ**を、ガ類は写真の**ヨツモンキヌバコガ**や、**マメキシタバ**、**イヌビワハマキモドキ**、**ホタルガ**などを確認しました。



ヨツモンキヌバコガ

バッタ目

林縁では**ササキリ**の幼虫が始めました。**サトクダマキモドキ**の幼虫もいます。**ナツノツツレサセコオロギ**の鳴き声は10個体以上、**キンヒバリ**の鳴き声は3個体でした。草地では**ホシササキリ**、**アカハネオンブバッタ**、**トノサマバッタ**、**クルマバッタモドキ**などを確認しました。



ササキリ幼虫

カメムシ目

セミはまだ**ニイニゼミ**しか鳴いていません。**チュウゴクアミガサハゴロモ**は20個体ほどを見ました。在来の方は見ていません。**シロヘリカメムシ**の幼虫と成虫以外は、**シマサシガメ**や**ホソハリカメムシ**など、普通種だけの確認となりました。



シロヘリカメムシ幼虫

ハチ目

写真の**キアシナガバチ**のほか、**セグロアシナガバチ**、**オオスズメバチ**、**ベッコウバチ**、**スズバチ**など、やや大き目のハチが活動していました。その他では、**アカスジチュウレンジヤ**、**ヤマトアシナガアリ**、**クロナガアリ**を含む7種のアリを確認しました。



キアシナガバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年7月②）

2023年7月11日 天候：晴れ 調査者1名

蒸し暑い日が続くので、早朝から調査を始めました。大樹の森の陽当たりの方向がいつもと違います。カシナガにやられたクヌギやコナラからは変な樹液らしきものが出ていますが、**カブトムシ**や**クワガタムシ**はいませんでした。



チョウ目 チョウ類10種

チョウ類は**キアゲハ**、**アオスジアゲハ**、**モンキチョウ**、**サトキマダラヒカゲ**、**ムラサキシジミ**、**ルリシジミ**、**コチャバネセセリ**などを、ガ類は、常連の**ホタルガ**、**ウラベニエダシャク**、**マエキヒメジャク**のほか、**オオトビスジエダシャク**の幼虫を確認しました。



キアゲハ

トンボ目 10種

前回の調査で見られなかった**キイトンボ**を1♂1♀確認でき、安心しました。大井谷池では**ウチワヤンマ**と**タイワンウチワヤンマ**を撮影できました。水田の上を**ウスバキトンボ**が飛翔していました。その他、**チョウトンボ**と**ショウジョウトンボ**を撮影できました。



タイワンウチワヤンマ

バッタ目

ナツノツツレサセコオロギの鳴き声を10個体以上聞いたのですが、撮影できたのは、その近くにいたメス1個体だけです。鳴き声のみでの確認は、**キンヒバリ**と**マダラス**です。**ササキリ**の幼虫と**サトクダマキモドキ**の幼虫は、なかなか美しい色をしていると思います。



ナツノツツレサセコオロギ

カメムシ目

クマゼミの鳴き声を初めて聞きました。セミは他に**ニイニゼミ**が鳴いていました。**ヤノクチナガオオアブラムシ**は**トビイロケアリ**の蟻道に幼虫と成虫がいました。その他、**クサギカメムシ**の幼虫、**オオヨコバイ**、**ベッコウハゴロモ**、**チュウゴクアミガサハゴロモ**などを確認しました。



ヤノクチナガオオアブラムシ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年7月③）

2023年7月24日 天候：晴れ 調査者1名

水田のイネの葉がかなり伸び、その上をツバメが飛んでいます。ダイサギもいました。ヒメジョオンがやたらと目立ちますが、**アオツツラフジ**（右の写真）、**カラスウリ**、**アキノタムラソウ**なども、地味に咲き始めていました。



チョウ目 チョウ類13種

チョウ類は、**ナミアゲハ**、**ナガサキアゲハ**、**キタキチョウ**、**モンシロチョウ**、**ヒカゲチョウ**、**サトキマダラヒカゲ**（最多）、**コムシジ**、**キタテハ**、**ツマグロヒョウモン**、**ウラギンシジミ**、**ヤマトシジミ**、**ウラナミシジミ**、**ダイミョウセセリ**を確認しました。



ダイミョウセセリ

トンボ目 12種

タイワンウチワヤンマは前回より良い写真でしたが、続くのも何なので、休憩中の**ウスバキトンボ**を選びました。林内で**ハグロトンボ**を見たのは、今シーズン初めてです。その他、**アオモンイトトンボ**、**キイトンボ**、**ギンヤンマ**、**チョウトンボ**、**コシアキトンボ**などを確認しました。



ウスバキトンボ

カメムシ目

クマゼミ、**ニイニゼミ**、**アブラゼミ**が鳴いていました。林床にいる**オオモンシロナガカメムシ**が、外周路の仮舗装の場所に出てきていました。右の写真は、アカメガシワに群がっていた**オオホシカメムシ**です。カメムシ科の幼虫では、**クサギカメムシ**と**キマダラカメムシ**を確認しました。



オオホシカメムシ

コウチュウ目

外周路の仮舗装で心配された**コハンミョウ**は約20個体を確認できて一安心です。右の写真は、自然遊学館に標本がない**カタジロゴマフカミキリ**です。と言っても、珍しい種ではありません。**カブトムシ**や**タマムシ**という人気のある種も健在のようです。



カタジロゴマフカミキリ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年8月①）

2023年8月3日 天候：晴れ 調査者1名

夏は咲いている花の種類が少なくなります。それでも夏から咲き始める植物もあって、右の写真はサネカズラの花です。その他にも、ヤマノイモの花も咲き始めました。イネ科のケイヌビエも穂が出ました。



チョウ目 チョウ類16種

チョウ類はナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、コミスジ、ゴマダラチョウ、ルリシジミ、ウラナミシジミ、ダイミョウセセリなどを確認しました。ガ類ではチャハマキ(♂)の写真を撮ることができました。



チャハマキ

トンボ目 11種

ハグロトンボ、アオイトトンボ、キイトトンボ、ウチワヤンマ、タイワンウチワヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボなどを確認しました。それにしても、ショウジョウトンボのオスはどうしてもこんなに赤いのだろうか？



ショウジョウトンボ (♂)

カメムシ目

クマゼミとニイニゼミの鳴き声が多いのですが、写真を撮らせてくれるのはアブラゼミです。ススキの葉に止まるエビイロカメムシ幼虫の紅色が印象的です。倒木を裏返すと、オオモンシロナガカメムシの幼虫がたくさんいました。あとはクモヘリカメムシなどの常連の種ばかりでした。



アブラゼミ

コウチュウ目

先週も見たコハンミョウが約30個体いました。水田の水辺ではヌマガエルの子供とニツチが重なります。カブトムシやコクワガタも日中から見る事ができました。ナガゴマフカミキリは個体数が多い種です。オオバクサの葉上でフタクサハムシの幼虫と蛹を確認しました。



コハンミョウ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年8月②）

2023年8月10日 天候：晴れ 調査者1名

猛暑日が続きます。水田の緑が濃くなり、青空との対比で、いかにも夏という感じの景観です。前回の調査で咲きかけていたサネカズラの花は、もうありませんでしたが、クサギ、タラノキ、カクレミノの花が咲き始めました。



チョウ目 チョウ類12種

チョウ類はナミアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、サトキマダラヒカゲ、コミスジ、ベニシジミ、イチモンジセセリ、コチャバネセセリなどを確認しました。右の写真の下にある白い三角形の部分は、通り過ぎたモンキアゲハの白い紋です。



クロアゲハ

トンボ目 10種

アオイトトンボ、オオアオイトトンボ、キイトトンボ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボを確認しました。キイトトンボは7個体いて、今シーズン最多の確認個体数でした。



ショウジョウトンボ (♀)

バッタ目など

ハラオカメコオロギとエンマコオロギの鳴き声を聞きましました。でも秋の気配はありません。オオカマキリも初めて成虫を確認しました。ハラヒロカマキリは、5個体の幼虫のうち4個体が緑色型で、1個体だけ写真のように褐色型で斑紋のあるタイプでした。



ハラヒロカマキリ幼虫

カメムシ目

クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミに加えて、ツクツクボウシが鳴き始めました。ガガイモに付いたキョウチクトウアブラムシはコロニーの出来始めでした。相変わらず、伐採木の下には多数のオオモンシロナガカメムシの幼虫がいます。ヒゲナガカメムシを久々に見ました。



クマゼミ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年8月③）

2023年8月21日 天候：晴れ 調査者1名

ガガイモ、イノコツチ、チチミザサ、キンエノコロなどが花や穂を付け始めました。写真は、切通しで最初に撮影したミスジミバエです。ハエ目では他に、オオハナアブが水たまりに集まっているのが気になりました。



チョウ目 チョウ類13種

チョウ類はナミアゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、コミスジ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、キマダラセセリを確認しました。



キマダラセセリ

トンボ目 11種

写真は、ギンヤンマの3ペアが産卵していた場面の一部です。その他、ハグロトンボ、オオアオイトトンボ、キイトトンボ、クロイトトンボ、タイワンウチワヤンマ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボを確認しました。



ギンヤンマ

バッタ目など

今シーズン初めて、クサヒバリとカナタタキの鳴き声を聞きました。秋の気配はまだありません。ショウリョウバッタモドキは幼虫でした。オオカマキリは4個体とも成虫、ハラヒロカマキリは2個体が幼虫、1個体が成虫でした。駐車場にナナフシモドキの死体がありました。



オオカマキリ

カメムシ目

ミンミンゼミが5個体鳴いていました。記憶にない多さです。セミは他に、クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニゼミが鳴いていました。アカメガシワには、オオボシカメムシの幼虫でした。右の写真はヌルデシロアブラムシがヌルデにつく虫こぶです。



ヌルデミフシ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年9月①）

2023年9月1日 天候：晴れ 調査者1名

ウロコ雲と、エンマコオロギやクサヒバリ)の鳴き声がそろっても、日差しが強すぎて秋の気配は全くありません。センニンソウ(右の写真)、ノアズキ、ヒシタゴボウ、アメリカカタカサブロウなどの花が咲き始めました。



チョウ目 チョウ類11種

チョウ類は、ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、サトキマダラヒカゲ、ゴマダラチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ダイミョウセセリ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、キマダラセセリを確認しました。ガ類は、ホソオビキマルハキバガやホシボウジャクなどを確認しました。



ホソオビキマルハキバガ

トンボ目 12種

キイトトンボは牛神池だけでなく、周回路でも見ることが出来ました(3個体ずつ)。その他、ハグロトンボ、タイワンウチワヤンマ、ギンヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ(最多)、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボなどを確認しました。



キイトトンボ

バッタ目

ショウリョウバッタモドキが成虫になりました。ツクムシの成虫を今シーズン初めて確認し、ツツレサセコオロギの鳴き声も初めて聞きました。キンヒバリが、牛神池だけでなく、林縁の水田の中でも鳴いていました。林縁で撮影させてくれるクサヒバリはメスばかりです。



クサヒバリ

カメムシ目

ミンミンゼミが3個体鳴いていたほか、ツクツクボウシとニイニゼミの鳴き声を聞きました。ガガイモの茎にキョウチクトウアブラムシが目立つようになりました。アカサシガメは普通種ですが、今シーズン初です。チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫の写真は、胴体が下です。チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫



チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫

「千石荘」昆虫調査速報（2023年9月②）

2023年9月10日 天候：晴れ 調査者1名

イネの穂が垂れても、スキの穂が出て、**シオカラトンボ**が老熟しても、ツリガネニンジンが咲いても、秋の気配がしません。前は牛神池以外でも見た**キイトンボ**は、今回は牛神池でのみ5個体を確認しました。



チョウ目 チョウ類13種

サトキマダラヒカゲ、**ヒメウラナミジャノメ**、**イチモンジセセリ**をよく見ました。**ナミアゲハ**、**キタキチョウ**、**クロコノマチョウ**、**コムシジ**、**ツマグロヒョウモン**、**ウラナミシジミ**、**ダイミョウセセリ**、**イチモンジセセリ**、**チャバネセセリ**、**キマダラセセリ**は、それぞれ1〜2個体でした。



クロコノマチョウ

バッタ目

鳴き声の数が多かったのは、樹上の**クサヒバリ**と地面の**エンマコオロギ**です。大井谷池周辺の水田で鳴く**キンヒバリ**の数も前回より増えました。**マツムシ**の鳴き声は聞かれましたが、メス成虫を撮影できました。**サトクダマキモドキ**や**ツチナゴ**も成虫になっていました。



マツムシ

カメムシ目

セミは、**ツクツクボウシ**が多く、ほかに**ニイニイゼミ**が少し鳴いていました。ガガイモ上では、**キョウチクトウアブラムシ**に加えて、**ヒメジョウナガカメムシ**が目立つようになりました。その他、常連の種ばかりで、写真は**チャバネアオカメムシ**の中齢幼虫にしました。



チャバネアオカメムシ幼虫

コウチュウ目

伐採された倒木下に、**カブトムシ**の小さな幼虫がいました。写真は**コクワガタ**のペアで、その周りにたくさんの**ルイスコオニゲキス**が写っています。後翅に薄黄色の紋があります。エノキの葉先の方を摂食している**ヒシモンナガタマシ**を3個体確認しました。



コクワガタ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年9月③）

2023年9月21日 天候：くもり 調査者1名

とにかく風が強く、写真を撮るのに苦労しました。ヒガンバナが彼岸に入ってからすぐに咲くのは文字通りだと感じました。**ホシアシナガヤセバエ**と**モンキアシナガヤセバエ**を同じ樹液場で見ました。



チョウ目 チョウ類14種

写真は**ナミアゲハ**と**ヒカゲチョウ**しか撮れませんでした。個体数の最多は**サトキマダラヒカゲ**の4個体で、いずれも翅はボロボロでした。**アオスジアゲハ**、**キタキチョウ**、**キタテハ**、**ツマグロヒョウモン**、**ウラナミシジミ**、**イチモンジセセリ**、**キマダラセセリ**などは1個体の確認でした。



ナミアゲハ

トンボ目 10種

ウスバキトンボは風が吹かない林縁の一角で群飛していました。牛神池では、一気に**リリアカネ**が増え（6個体）、**キイトンボ**と個体数が逆転しました。**タイワンウチワヤンマ**、**ギンヤンマ**、**オオシオカラトンボ**、**ショウジョウトンボ**、**オオアイトトンボ**は1個体の確認です。



リリアカネ

バッタ目

樹上では**クサヒバリ**や**カネタタキ**、草上では**オナガササキリ**、地面では**エンマコオロギ**、**ハラオカメコオロギ**、**ツツレサセコオロギ**などの鳴き声が聞こえます。水田周辺では、**コバネナゴ**や**ウスイロササキリ**が成虫になっていました。強風のため、草上であまり撮影できませんでした。



サトクダマキモドキ

カメムシ目

セミの鳴き声は、ほとんどが**ツクツクボウシ**で、**ニイニイゼミ**はわずかでした。林床の**オオモンシロナガカメムシ**は成虫になり、一部の個体が交尾していました。その他、**アオハハゴロモ**、**チュウゴクアミガサハゴロモ**、**ヒメオオメカメムシ**、**アカヒメヘリカメムシ**などを確認しました。



オオモンシロナガカメムシ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年10月①）

2023年10月2日 天候：晴れ 調査者1名

稲の穂がかなり垂れてきました。稲刈りも間近でしょう。水田の上をツバメが飛び、スズメは畦で群れています。林縁ではモズの鳴き声が響いています。池の堤ではツリガネニンジンが咲いていますが、写真を撮りにくい花です。



チョウ目 チョウ類9種

チョウ類は**ナミアゲハ**、**キタキチョウ**、**モンシロチョウ**、**ヒカゲチョウ**、**サトキマダラヒカゲ**、**ウラギンシジミ**、**ウラナミシジミ**、**チャバネセセリ**、**キマダラセセリ**を確認しました。ガ類では**センダンヒメハマキ**、**ギンツバメ**、**シロオビノメイガ**、**アカエグリバ**などを確認しました。



センダンヒメハマキ

バッタ目

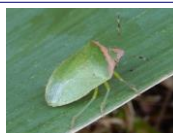
鳴き声の数が多かったのは**クサヒバリ**、**ツツレサセコオロギ**、**マダラスズ**、**アオマツムシ**、**ハラオカメコオロギ**といったところです。前回と違う種は、**クビキリギス**の幼虫、**ササキリ**、**ウマオイ属**、**セスジツユムシ**ぐらいです。**ウマオイ属**はメスだったので、同定できませんでした。



ウマオイ属

カメムシ目

ツクツクボウシの鳴き声は減りました。久々に**ヒメツチカメムシ**を見ました。カメムシ大量発生というニュースが世間を賑わしていますが、主役の**ミナミアオカメムシ**は、成虫1個体と幼虫3個体だけでした。水田の畦では、**アカスジカスミカメ**や**クモヘリカメムシ**が増えてきました。



ミナミアオカメムシ

コウチュウ目

樹液には**コクワガタ**と**ヨツボシケシキス**が来ていました。伐採された樹幹の下には、**セアカヒラタゴミムシ**、**カブトムシ**の幼虫、**サトユミアシゴミムシ**、**オオクチキムシ**などがいました。あとは、**クロウリハムシ**と**オジロアシナガソウムシ**だけで、寂しい結果でした。



カブトムシ幼虫

「千石荘」昆虫調査速報（2023年10月②）

2023年10月12日 天候：晴れ 調査者1名

ようやく秋の気配を感じました。一部の水田を残して、稲刈りがほぼ終わりました。畦には、ぱっと見では種名が分からないイネ科植物がたくさん穂を出しています。全部、種類を調べようと思うと、気が狂いそうになります。



チョウ目 チョウ類5種

チョウ類は**キタキチョウ**、**モンシロチョウ**、**ヒカゲチョウ**、**ウラナミシジミ**（最多）、**チャバネセセリ**を確認しました。ガ類の成虫では**ツマジロエダシヤク**や**リンゴツマキリアツバ**、幼虫では**フトスジエダシヤク**、**ヨモギエダシヤク**、**ホシボウジャク**などを確認しました。



リンゴツマキリアツバ

バッタ目

ササキリ、**オナガササキリ**、**ウスイロササキリ**、**ホシササキリ**、**ハラオカメコオロギ**、**エンマコオロギ**、**アオマツムシ**、**クサヒバリ**、**マダラスズ**、**カネタタキ**を確認しました。オンブバッタ類は今回も**アカハネオンブバッタ**のみで、今シーズンはまだ在来種の方を確認していません。



アカハネオンブバッタ

カメムシ目

畦の草間には、**セジロウンカ**、**ヒメトビウンカ**、**アカスジカスミカメ**、**クモヘリカメムシ**などが集結していました。カメムシ科は**ミナミアオカメムシ**と**クサギカメムシ**だけで、個体数もわずかです。**チュウゴクアミガサハゴロモ**がジョロウグモの網に掛かっているのをよく見ました。



ヤノクチナガオアブラムシ

ハチ目

オオスズメバチ、**コガタスズメバチ**、**セグロアシナガバチ**は、涼くなったせいか動きが弱々しくなりました。その他、**シロオビタマゴバチ**、**キンケハラナガツチバチ**、**スズバチ**、**ウメマツオオアリ**、**トビイロケアリ**、**オオハキリバチ**などを確認しました。



オオスズメバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年10月③）

2023年10月23日 天候：晴れ 調査者1名

稲刈りが終わり、朝と昼の寒暖差が大きい時期になりました。ススキの穂を見ると、秋が来たなと感じます。でも、アカトンボの仲間は**リスアカナ**だけでした。今年はタヌキマメの花をあまり見かけませんでした。



チョウ目 チョウ類12種

チョウ類で前回と違うのは**クロコノマチョウ**（の集団）、**キタテハ**、**ウラギンシジミ**、**ムラサキシジミ**といったところ。ウラナミシジミが最多というのは変わりません。ガ類の幼虫では**フトスジエダシヤク**、**シモフリスズメ**、**フクラスズメ**、**ハスモンヨトウ**などを確認しました。



シモフリスズメ幼虫

バッタ目など

カンタンの鳴き声を聞くのは、主に林縁で、クズが生えている場所がほとんどです。**マツムシ**は後脚の取れたメスを確認しました。**オオカマキリ**は2♂1♀、**ハラヒロカマキリ**は2♀1卵囊を確認しました。その他、**モリチャバネコギフリ**と**ヒゲジロハサミムシ**を確認しました。



ハラヒロカマキリ

カメムシ目

畦には、**セジロウンカ**、**シロミヤクイチモンジヨコバイ**、**アカスジカスミカメ**（幼虫も）、**クモヘリカメムシ**などが多数いました。**クリオオアブラムシ**の小コロニーをウメガシの小枝で確認しました。**ヌルデシロアブラムシ**や**ヤノクチナガオアブラムシ**は居る場所が決まっています。



アカスジカスミカメ

ハエ目

秋になると**ヒゲナガヤチバエ**が見られるようになります。**オオハナアブ**、**シマハナアブ**、**キゴシハナアブ**、**ホソヒラタアブ**といった普通種のハナアブ類が多数、セイタカアワダチソウに訪花していました。**ヨモギワタタマバエ**と**ヨモギクコバタマバエ**の虫こぶを確認しました。



キゴシハナアブ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年11月①）

2023年11月2日 天候：晴れ 調査者1名

昆虫の出現種数が減り、速報用の写真をそろえるのが大変になってきました。**アカアカナ**が飛来していますが、うまく止まってくれません。写真はカキの木にリュウキュウアサガオが絡まって、派手な配色になったものです。



チョウ目 チョウ類7種

チョウ類では**ウラナミシジミ**の数が多く、おそらく50個体は見たと推定します。**モンシロチョウ**、**キタキチョウ**、**クロコノマチョウ**、**キタテハ**、**ツマグロヒョウモン**、**チャバネセセリ**と合わせて7種になりました。右の写真は**カラムシ**に止まっている**フクラスズメ**の幼虫です。



フクラスズメ幼虫

バッタ目

カンタンの鳴き声は前回よりもやや増えました。今年の傾向としては、**クサヒバリ**や**マダラスズ**以外の鳴く虫の声が少なく、**コバネナゴ**をはじめ、バッタ類も個体数も少なかったことがあげられます。オンブバッタ類は**アカハネオンブバッタ**ばかりを見えています。



ササキリ

カメムシ目

畦では、**アカスジカスミカメ**に加えて、**ウスモンミドリカスミカメ**も見られるようになりました。写真は何とか撮ることができた**アオモンツノカメムシ**です。『カメムシ図鑑』によると、1種かどうか分からないそうです。なので、とりあえず「**アオモンツノカメムシ**」としておきます。



アオモンツノカメムシ

コウチュウ目

写真が普通種ばかりになってしましますが、**サトユミアシゴミムシ**を載せておきます。ピントが合ったのは、これと**カブトムシ**の幼虫くらいでした。**ヒシモンナガタマムシ**は、ずっと同じエノキの若木で確認しています。**シロコブソウムシ**と**ヨモギハムシ**の写真はピンボケでした。



サトユミアシゴミムシ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年11月②）

2023年11月14日 天候：晴れ 調査者1名

まだそれほど寒くはないですが、林の中でシロハラ（オオシロハラ）の鳴き声を聞いた時、冬が間近だと感じました。前は止まってくれなかった**アカアカナ**が、この日はセンダンの葉に止まっていて、手で掴むことが出来ました。



チョウ目 チョウ類5種

ウラナミシジミの個体数は一気に減りました。チョウ類は他に、**キタキチョウ**、**モンシロチョウ**、**ツマグロヒョウモン**、**ヤマトシジミ**を確認しました。ガ類は、ずっと同じ場所にいる**キノコヒモミノガ**の幼虫と、**アオツツラフジ**の茎に**ヒメエグリバ**の幼虫を確認しました。



ヒメエグリバ幼虫

バッタ目

弱々しいながらも鳴き声を聞いたのは**クサヒバリ**、**カナタタキ**、**エンマコオロギ**、**ハラオカメコオロギ**、**マダラスズ**で、**モリオカメコオロギ**はメス成虫を採集しました。バッタ類は、クズの葉上で「日光浴」をしている**ツチナゴ**だけを確認しました。



モリオカメコオロギ

カメムシ目

畦に多くいる**アカスジカスミカメ**、**ウスモンミドリカスミカメ**、**クモヘリカメムシ**などは、前回とほぼ同じメンバーです。林縁にいる**ヒメホシヨコバイ**や**ホソコバネナガカメムシ**は小さくて写真がうまく撮れません。**ミナミアオカメムシ**は幼虫と成虫を確認しました。



ミナミアオカメムシ幼虫

コウチュウ目

セイタカアワダチソウの花蜜が減ったのか、**アシフトハナアブ**、**オオハナアブ**、**ホソヒラタアブ**、**キゴシハナアブ**はクズなどの葉上にいて、**ツマグロキンバエ**だけが吸蜜していました。**ルリミズアブ**はアカメガシワの葉上にいて、その他、**ヨモギワタタマバエ**の虫えいを確認しました。

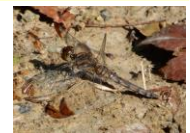


アシフトハナアブ

「千石荘」昆虫調査速報（2023年11月③）

2023年11月20日 天候：晴れ 調査者1名

サルトリイバラ、サネカズラ、カラスウリ、ナンテン（たぶん植栽）のほか、枝葉ごと落ちたナメノキの赤い実が目立ちます。トンボ目は**アカアカナ**2匹と右の写真の**コノシメトンボ**1♀を確認しました。



チョウ目 チョウ類5種

チョウ類は**キタキチョウ**、**モンシロチョウ**、**クロコノマチョウ**、**ウラナミシジミ**、**チャバネセセリ**を確認しました。右の写真はセンダンの枝にいた**フトスジエダシヤク**の幼虫で、**サムライコマユバ**亜科の一種が脱出して白い繭（卵塊）を作っていました。



フトスジエダシヤク幼虫

カメムシ目

右の写真は、**ウスモンミドリカスミカメ**の成虫が周辺に多くいたので、その幼虫だと思っています。各地でカメムシの大発生が話題になっていますが、**チャバネアオカメムシ**も**ミナミアオカメムシ**も1個体ずつの確認でした。**ヤノクチナガオアブラムシ**はこの時期でも活動が盛んです。



ウスモンミドリカスミカメ幼虫

チャタテムシ目

この秋、貝塚市三ヶ山でも**クロミヤクチャタテ**を確認しました。これまで自然遊学館に標本がなかった種です。せんごくの社でも見つかりました。2002年以来、個人的に調査している和泉市信太山でも初めて確認しました。ここまでは初確認が重なるので、偶然ではないと思います。



クロミヤクチャタテ

ハエ目

ユスリカ科の同定は難しいのですが、**オオユスリカ**は分かります。この時期になると、**ルリミズアブ**、**オオクロバエ**、**ヒゲナガヤチバエ**が目立つようになります。ハナアブ科は**ホソヒラタアブ**、**オオハナアブ**、**キゴシハナアブ**の3種だけで、個体数も減ってきました。



オオユスリカ